

日時 令和5年5月11日(木)

午後2時00分～午後4時45分

場所 市民活動サポートセンター北ラウンジ

## 第 1 回

さいたま市市民活動推進委員会

### 会 議 録

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 さいたま市市民活動推進委員会の概要説明
- 5 議題
  - (1) 委員長の選出
  - (2) 職務代理者の指名
  - (3) 諮問事項について
  - (4) マッチングファンド事業について
  - (5) 令和4年度マッチングファンド事業の報告会
  - (6) 今後のスケジュールについて
- 6 その他
- 7 閉会

さいたま市市民局市民生活部  
市民協働推進課

出席者名簿

委員	渥美	翔 (公募により募集した市民)
(50音順)	阿部	成男 (市民活動団体の代表者)
	大木	洵人 (公募により募集した市民)
	大塚	恵利子 (市民活動団体の代表者)
	岡	志寿子 (公募により募集した市民)
	篠崎	正彦 (学識経験を有する者)
	鈴木	俊治 (学識経験を有する者)
	田中	亜弓 (公募により募集した市民)
	谷崎	美智子 (公募により募集した市民)
	濱中	真人 (大学又は事業者の代表者)
	久間	亜紀 (公募により募集した市民)
	平井	まゆみ (大学又は事業者の代表者)
	平野	直 (市民活動団体の代表者)
	丸屋	美智代 (市職員)
	山形	華子 (市民活動団体の代表者)
事務局	浅見	有 (市民協働推進課課長)
	稲村	嘉一 (市民協働推進課課長補佐兼係長)
	高橋	隼 (市民協働推進課主事)
欠席者	田中	心彩 (市民活動団体の代表者)
	藤枝	陽子 (市民活動団体の代表者)
	堀川	修平 (学識経験を有する者)
	山口	恵美子 (市民活動団体の代表者)
	山本	和広 (市民活動団体の代表者)

## 1 開会

### ○事務局

令和5年度第1回さいたま市市民活動推進委員会を開催します。私は本日司会を務めます、市民協働推進課の浅見です。

## 2 委嘱状交付

### ○事務局

さいたま市市民活動推進委員の委嘱を行います。私が皆様の名前を読み上げますので、その場に御起立願います。その際、五十音順に読み上げ、敬称は略させていただきます。

渥美 翔

阿部 成男

大木 洵人

大塚 恵利子

岡 志寿子

篠崎 正彦

鈴木 俊治

田中 亜弓

田中 心彩

谷崎 美智子

濱中 真人

久間 亜紀

平井 まゆみ

平野 直

藤枝 陽子

堀川 修平

丸屋 美智代

山形 華子

山口 恵美子

山本 和広

以上20名です。

時間の都合上、委員会を代表しまして、渥美委員に委嘱状をお渡ししますので御了承ください。また、委任状をお渡しするところは撮影をいたします。

なお、市長は本日公務のため、代理で口野副市長から委嘱いたします。

○副市長

委嘱状

渥美 翔 様

さいたま市市民活動推進委員会委員を委嘱します

任期は令和7年4月24日までとします

令和5年4月25日

さいたま市長 清水勇人

○事務局

副市長から委員会への諮問事項をお渡しします。委員会を代表して、平井委員にお受け取りいただきます。

○副市長

諮問

世代に関係なく地域課題に自ら取り組む地域社会の確立に資する市民活動及び協働の推進について

貴委員会の意見を求めます。よろしく願いいたします。

3 あいさつ

○事務局

副市長から一言御挨拶を申し上げます。

○副市長

改めましてこんにちは。さいたま市副市長の日野でございます。

本来であれば、清水勇人さいたま市長が参りまして、皆様に御挨拶をさせていただくところでございますが、本日、公務が重なりまして出席は叶いませんでした。清水市長より、挨拶文

を預かって参りましたので、代読させていただきます。

本日はお忙しい中、さいたま市市民活動推進委員会に御出席を賜り、誠にありがとうございます。またこの度は、委員に御就任いただきましたことを心より感謝申し上げます。

本市では、平成19年4月に活力のある地域社会の実現を目指す、さいたま市市民活動及び協働の推進条例を施行したところでございます。そして、この条例に基づきまして、必要な事項を調査審議することを目的に本委員会を設置させていただきました。

本委員会では、これまで8期16年にわたり、諮問に対しまして委員の皆様から活発な御議論をいただいております。第8期では、「持続可能で豊かな地域社会の形成に資する市民活動及び協働の推進について」御審議をいただいたところでございます。

第9期となります。今回は、「世代に関係なく地域課題に自ら取り組む地域社会の確立に資する市民活動及び協働の推進について」諮問させていただきます。

これまで地域社会で主な市民活動の担い手であったセカンドライフ世代に加え、若者の市民活動と協働への参加を促すことで、世代に関係なく、地域の問題に自ら取り組む地域社会を確立するため、行政が何をすべきであるかという点について、御審議をお願いするものでございます。

結びになりますが、充実した答申となりますことを御期待申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

令和5年5月11日

さいたま市長清水勇人

代読でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### ○事務局

第9期市民活動推進委員会のスタートに当たりまして、本日御出席の皆様と集合写真を撮影します。

《写真撮影》

副市長は次の公務の都合がありますので、ここで退席いたします。

#### ○副市長

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

本日は第9期推進委員会の第1回目ということで、お集まりの委員に、御自身の市民活動への関わり等、一言ずつ加えて自己紹介をお願いします。渥美委員からお願いします。

《各委員自己紹介》

○事務局

事務局の紹介をいたします。

《事務局紹介》

今年度はこのメンバーで事務局を務めます。市民局長は、公務の都合上、ここで退席します。

本日の資料を確認します。

《資料確認》

4 さいたま市市民活動推進委員会の概要説明

○事務局

次第4の本市の市民活動推進委員会について、事務局から御説明申し上げます。

《資料1-1～1-5に沿って説明》

5分ほど休憩を挟んで、次の議題に入ります。休憩に入る前に委嘱状をお渡ししますので、委嘱状を受け取った方から休憩に入ってください。再開の時刻は2時45分からとします。

《5分休憩》

5 議題

■議題1 委員長の選出

○事務局

次第5の議題1に移ります。資料1-3の委員会規則を御覧ください。本委員会につきましては、第3条で委員長が委員会の会議を招集し、その議長となることとなっております。

本日は初めての会議で委員長が定まっていないため、市長が委員会の会議を招集し、ここまでの進行を事務局が行って参りました。まず、委員長の選出を皆さんにお願いしたいと思えます。規則では委員の互選とありますが、どなたか御意見はございますか。

○阿部委員

前期まで佐々木委員長の下で取りまとめをしていただいたりしてお世話になったのですが、篠崎様が佐々木さんの後任ということがあれば、もし可能であれば、佐々木さんの後を篠崎委員にお願いできればというのが私の意見でございます。

○事務局

篠崎委員ということで意見が上がりましたが、いかがでしょうか。

○各委員

承認。

○篠崎委員長

ありがとうございます。

○事務局

篠崎委員、委員長の席に移動いただいてよろしいでしょうか。

○篠崎委員長

皆さんの御指導を受けながら取り組ませていただければと思います。良い委員会にしていければと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局

この後の進行につきましては、篠崎委員長にお願いしたいと思います。

■議題2 職務代理者の選出

○篠崎委員長

議題の2つ目、職務代理者の選任です。

市民活動推進委員会の規則にもありますが、僭越ながら委員長が指名するというので、私の案でございますが、鈴木委員にお願いしたいと思っております。豊富なまちづくり、市民活動の経験がおありですし、大学教授というお立場で客観的な視点から、皆さんの御意見をまと

める力をお持ちになっいらっしゃると思っております。皆様いかがでしょうか。

○各委員

承認。

○鈴木委員

力不足かと思いますが、よろしく願いいたします。

○篠崎委員長

よろしく願いいたします。では議事を進めます。

先ほど事務局から会議の公開ということで御説明ございました。傍聴の許可をしたいと思っておりますが、事務局にお伺いします。本日の傍聴の状況を教えてください。

○事務局

本日は2名の方が入場されています。

○篠崎委員長

傍聴の許可をいたします。委員会が開始しているので、この後の傍聴の追加は無いということでしょうか。

○事務局

これから随時傍聴希望がありましたら、また報告させていただきます。

■議題3 諮問事項について

○篠崎委員長

諮問について、事務局から御説明をいただきます。

○事務局

《資料2に沿って説明》



○篠崎委員長

諮問事項について、皆様から御質問、御意見などを伺いたいと思います。

最初の副市長の御挨拶でも若い世代というお話がありました。この諮問事項でも明記されております。さらに今回の委員さんには、非常に若い委員さんもいらっしゃるので、参考に御意見をいただければと思います。

○渥美委員

私自身、地域活動をしている中で感じる課題としては、やはり同年代の方が特に少ないということを感じます。消防団に至ってもそうなのですが、私の1つ上の年齢の方も30代の後半であったりとか、チャレンジスクールに至っても40代の方だったり、あとはもう60代以降の方がとても多いという印象を受けています。

まさしく諮問に書いてある若者の地域活動、市民活動への参加率というのは、私の経験も含めて、このぐらいなのだろうと感じるところです。私自身も市民活動に関わっている身として、この委員会等で若者の意見を代表してと言ったら変かもしれませんが、発言をたくさんさせていただきたいと思っております。

○篠崎委員長

拝見すると、若い委員の方が多く思っております。皆様の経験を活かしながら、若年層も含めた全世代が市民活動を推進するうえで、どう進めていけば良いのかという諮問だと思っております。

○平井委員

私どもの活動ですと、高校生や大学生がたくさん参加してくださっているのですが、やっぱり若い人たちがどこで情報をキャッチしているかがマッチしていないと、意欲は高くても、若者を求めている市民活動団体を探し出すことができないんですね。

その媒体というのが、いろいろなボランティアも募集サイトがあったりとか、ツイッターやインスタグラムとか、そういった情報をどこで若者が掴んでいるのかというところを若者に来てもらいたいなら、活動されている方々が学べる場所が必要なのかなと常に感じていますし、何かそういったところが行政と一緒に取り組めたら良いのかなと思っています。

#### ○山形委員

諮問書には、18歳から29歳と載っているのですが、私の感覚としては、ここの世代から地域活動に参加していくということではなくて、この前の世代でいかに地域に関わってきたかということの方が、その後の展開に繋がっていくのではないかと考えております。

息子が中学生になるのですが、去年から校長が変わりまして、地域と子供たちをもっと結びつけてく活動をしたいというところを強く押していく活動をしているんですね。

その中で、例えば防災に関して、地域と中学生を結ぼうということで、それまでは防災とかそういった状況の時は、中学生は家に帰すというのが当たり前の流れだったのですが、そうではなくて、中学生になれば地域の力になるのではないかとというような考えで、できれば地域の方に使ってもらうように、中学生は例えば防災活動をする場に行かせて、そこで地域の人とコンタクトをとって、そこで何が出来るかということを話し合っ、そこで活動してもらおうというふうに展開を変えたんですね。

そうしたことによって、うちの中学校で募集をかけたところ、余りにも人数が多すぎて、3年生しか参加できず、1～2年生は参加できないぐらい、子供たちから参加したいと申し出がありました。

そういった形で、もう少し地域と学校を結ぶような、一世代前のところから活動を開始していくとか、繋ぐということをやっていければ、その先はまた子供たちが自分自身で繋がっていきこうという意識が芽生えるのではないかと思います。

#### ○篠崎委員長

統計では少ないけれど、潜在層としてはたくさんいるということ。

#### ○山形委員

そうだと思います。ただ、繋げるところがなかなか本人では出来ないということがあると思います。

#### ○篠崎委員長

予想以上に皆さんの御意見が出て、このままいくと時間切れになってしまうので、次回以降、こういったいろんな議題について、皆さんの御意見を伺ったり、議論したりという時間を作っていきたいと考えております。

○大木委員

地域活動と言ってしまうと自治会が入ってきます。さいたま市民意識調査を読んでいると、自治会が圧倒的に参加率は高いので、当然自治会となってしまうと、若い人は参加しないというのは、その通りかなと思うので、若干この数字は微妙だなと思っています。

そういう意味で市民活動の定義が前期のときでも、協働は何なのかみたいな議論があったので、これも継続して議論ができれば良いなと思っています。

○篠崎委員長

どこにフォーカスするかがやっぱりこの委員会のかかなり重要な部分だと思いますので、また皆さんの御意見をいただければと思います。

この後マッチングファンド事業について報告会がありますので、大変申し訳ありませんが次の議題へ移らせていただきます。

#### ■議題4 マッチングファンド事業について

○篠崎委員長

議題の4、マッチングファンド事業について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料3に沿って説明》

○篠崎委員長

御質問が無いので次の議題へ移ります。

#### ■議題5 令和4年度マッチングファンド事業の報告会

○篠崎委員長

議題5の令和4年度マッチングファンド事業の報告会、事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料4-1～4-4に沿って説明》

○篠崎委員長

報告会を始めます。事務局から説明があったように、質疑の時間は3分で、御質問のある方は簡潔にさせていただければと思います。最後の取りまとめの時間も短いので、各団体の御報告を伺いながら講評を記入していただければ良いかなと思っております。

では、令和4年度マッチングファンド事業の報告会を始めます。報告をお願いいたします。

○特定非営利活動法人にじの糸 吉野

まず大人が知ろう！自分らしく生きていくための性の知識、にじの糸の事業報告をさせていただきます。

まず、事業の実施概要です。当事業では教育関係者、保護者に向けて、専門家による性に関するオンライン講座のオンデマンド配信と中高生向けの性教育冊子、つながるBOOKの配布を行いました。

講座は、第1回月経妊娠性感染症編を高橋幸子さん、第2回性の多様性ジェンダー編を中島潤さん、第3回恋愛sex編を櫻井裕子さんと全3回実施し、申込者は延べ1,000名を超えまして、オンデマンド講座の3回合わせて、再生回数は1,415回でした。

つながるBOOKの配布は、第1回の配信後に申し込みが殺到しまして、すぐに6,000部に達し、大変大好評でした。

御参加いただいた方にアンケートを実施しまして声を集めました。「現在の学校における現状と性教育の必要性がよくわかった」、「私たちが伝えたい、教えたことを教えるのではなく、子供たちが知りたいことを伝えるということが印象に残った」、「子供たちに正しい知識を届けることで、自分の未来の選択肢を増やし、自立した人生を歩むことができると思った」、「つながるBOOKをすべての学校で配布して欲しい」、「日常の中で男女の区別をしていたシーンがたくさんあったことに気づいた」、「普通という概念から離れて多様性を考えていることの大切さを感じた」、「見た目性別を決め続けているというところにすごく納得した」、「性教育は一方的に指導するのではなく、子供たち、自分のこととして考えさせることが大切だと理解した」というような声をいただきました。

今後の展開については、今年度もマッチングファンド事業として継続して実施予定です。内容はアンケートでも多くの声が上がっていました、若者のリアルな事例紹介やより実践的な性の知識の伝え方についてお話しいただくように打ち合わせを進めております。

今回は、つながるBOOKの配布をさいたま市民の方に限定しましたが、今後は市民の方々に、より還元できるように計画しております。マッチングファンド事業としては今年度で終わりなのですが、今後は自主財源を確保していき、引き続き行っていきたいと思います。

○事務局

報告について質問のある方はいらっしゃいますか。

○篠崎委員長

つながるBOOKが非常に好評ということでしたが、紙媒体以外で電子化みたいな方法の配信はされているのでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

つながるBOOKは電子版というかウェブでも見れます。

○山形委員

宣伝はどのようにされたのでしょうか。学校のみでしたのでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

宣伝は、所管課さんの御協力のもと、チラシを学校に配布したり、あとは主にインスタグラムやフェイスブック等で拡散しました。

○久間委員

いろいろな意見があると思うのですが、否定的な意見もあったのでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

子供向けの講座だと勘違いされた方がいらっしゃって、内容が期待していたものと違ったという声があったのですが、それ以外に講座内容について、否定的な意見はありませんでした。

○篠崎委員長

子供向けというのは例えば、もっともっと小さな小学生とかそういう年代向けだと勘違いさ

れた方がいたということでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

子供が見て学ぶみたいな認識の方でした。広報では、大人が知ろう！というタイトルにはなっているのですが。

○渥美委員

事業実施報告書の成果の欄に第1回の申込者数が331名と記載がありまして、ページをめくると約250名様のお申し込みと書いてあるのですが、申込者数は331名で間違いはないですか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

そちらは途中経過で、収録をした時に取ったスクリーンショットなので、途中経過が250名となっています。

○事務局

以上で1番目の団体の報告を終了いたします。

○特定非営利活動法人子育て応援隊むぎぐみ 島村

子育て応援隊むぎぐみの島村と申します。

私どもでは、障害のある子もいない子もその家族もみんなが楽しめるバリアフリー講座を年に一度開催しております。今回は20回目の開催となりました。

令和3年度よりYouTubeライブ配信を始め、今回の再生回数は800回超え、来場者数は650人と大変多くの方に御来場いただきました。ボランティアスタッフも当日は100名を超える協力があり、ホール手前のホワイエブースでは交流が盛んに行われました。

開催までの流れを簡単に動画にまとめておりますので御覧ください。

《動画で事業内容を紹介》

参加者の声として、前回のコンサート時、入院中にオンライン配信を御覧いただいた方から、今回は会場に来てくださったとお話を伺いました。改めてオンライン配信をすることにより、活動の幅を広げられたと実感しております。

今後の展開についてですが、今回は骨伝導イヤホンブースなど設置をさせていただいて、企

業と組んで新しいチャレンジということも行いました。年々規模が大きくなっておりまして、グループの方針で令和5年からは、はなまるグループ全体で開催することとなりました。場所の確保が大変難しいのですが、抽選で何とかさいたま市の文化センターを確保できましたので、そちらで開催を予定しております。

○事務局

報告について質問のある方はいらっしゃいますか。

○田中委員

評価表の最後の項目に、「申請と報告では内容が合致しない場合、理由や経過を確認しながら柔軟に対応していただければ、より利用される団体が増えると思う」とあるのですが、具体的にはどういうことがあったのか教えていただけますか。

○特定非営利活動法人子育て応援隊むぎぐみ 島村

想定していないトラブルや機器機材が増えたりとかそういうものが起きました。その分、計画していたことよりも、費用がかさんでしまったこともあるので、初めから全部の計画を立てることができなかったということは、毎年生じています。

○大木委員

当事者団体の人たちは、どれくらい関わっていらっしゃいますか。

○特定非営利活動法人子育て応援隊むぎぐみ 島村

もちろんうちだけではなく、いろんな団体の方もいらっしゃいますけれども、一緒にやっているわけではなく、単体でやっております。

○事務局

時間になりましたので、2番目の団体の報告を終了いたします。

○さいたまつくりての輪 野村

さいたまつくりての輪のプレゼンを始めます。代表の塚田と野村が発表させていただきます。

さいたま市民活動夢マルシェは、市民が市民団体の活動に触れ、体験して楽しんで、各団体の活動を知ってもらうためのイベントとして、令和4年度は6月19日、9月25日、11月3日の計3回、浦和駅東口駅前市民広場で開催しました。

活動に興味のある市民に向けて、ワークショップなどの体験ブース、団体の製品やハンドメイド品の販売、舞台発表、スタンプラリーなどを実施し、大人から子供まで気軽に立ち寄れるよう工夫をしました。

参加者は延べ7,100名を超え、実に11月の夢マルシェでは3,500名近くの方の参加があり、2年間で通算6回開催し、回を重ねることで活動が周知され、知名度が上がったと思います。

参加者の声としては、当日のアンケート結果で、「市民活動について楽しいイメージがあった」、「いろいろな市民活動があり、興味が湧いた」などの回答も複数見られました。参加団体からは、「市民と交流することができ、自分たちの活動を周知する効果的な機会となった」、「他団体と話し、お互いの活動を知り、交流ができた」などがありました。

今後の展開としては、次年度以降も継続して市民広場でイベントを開催できるような体制を整え、市民活動をさらに周知するために、参加団体を増やし、行政と協働して継続的にイベントを開催していきたいと思っています。

また、今後の資金面においても、助成金の終了した今年度からは、参加者からの参加費だけでなく、企業の市民活動賛同出展、チラシ掲載広告などでも資金確保を目指し、継続的なイベント事業としていきたいと考えています。

市民活動への理解や協力を得るため、さらに本イベントにおいて活動を周知するとともに、紙媒体だけではなく、SNSを活用し、さらに活動を発信していきたいと思っています。今月の5月には、第8回目となる夢マルシェを開催します。

#### ○事務局

報告について、御質問のある方はお願いします。

#### ○平井委員

質問ではないのですが、事業者枠として参加している者としての感想です。

例えば先ほど協賛企業をこれから増やしたいとおっしゃっていて、確かに今、企業としてはSDGsということで、地域とのパートナーシップを念頭に置いている企業が多い中、「我々は地域に貢献している企業です」というように参加しやすいですね。そういった視点を持って活動



されているのが素晴らしいと思いました。

○山形委員

事業目的のうちの一つ、市民活動に参画する契機となるイベントということで、実際どれぐらいの方が新しく団体とかに参加されるようになってきたのでしょうか。

○さいたまづくりでの輪 塚田

他の団体がどうかというのは、ちょっとわからないのですが、私たちさいたまづくりでの輪に入りたいという人は結構いました。

○事務局

以上で3番目の団体の報告を終了いたします。

○さいたま有機都市計画 内藤

私たちはさいたま有機都市計画の内藤と吉岡と申します。さいたま有機都市計画では、さいたまOrganic City Fes. というイベントを2022年11月12日に浦和駅前市民広場で行いました。

このイベントは、さいたま市近郊の有機農家による農産物の直売や飲食店による食品の販売により農家と市民がより身近に感じられる催しとなりました。有機農業の現状やこれからの農業のあり方を考えるきっかけの場を作ることができたのではないかと考えております。

このイベントの出店者全体の総売上は175万7,420円となりました。来場者数は、会場とイベント内容の性質上、正確な人数まではカウント出来ないのですが、売り上げ規模から察すると、来場者数においてもさいたま市近郊の農産物イベントとしては、最大級のイベントになったのではないかと考えております。

次に参加者の声です。「市内にこんなに有機農家がいることを知らなかった」、「今後は取り寄せるのではなく、地元の有機農家から買いたい」といった声や「農産物もバリエーションに富んでいてとても満足」、「月に1度などの高頻度で開催して欲しい」、「野菜の販売だけでなく、ワークショップやステージなどがあり、子供も一緒に楽しめた」という声をいただきました。

参加農家の声としては、「さいたまOrganic City Fes. をきっかけに、横の繋がりがとても広がった」という声をいただきました。

今後の広がりについてですが、出店希望者、来場者ともに、かなりの増加が見込まれると思

っております。会場や開催頻度を含め、イベント規模の拡大を考えていかなければいけないと思っております。

規模感が大きくなることで、交流する人たちの場がより広がり、私たちの目指すさいたま市を有機農業のまちにしたいという目標に一步ずつ近づいていくのだと思っております。

○事務局

報告について、質問のある方はいらっしゃいますか。

○鈴木委員

大変有意義な取り組みだと思います。今後拡大されていく方向だと思うのですが、そうなりますとスタッフの問題とか開催経費もかかるし、それから農家さんとの繋がりというのいろいろ難しいという課題があると思うのですが、その辺の課題について展望はどのようにお考えでしょうか。

○さいたま有機都市計画 内藤

私たちはこの会場でこれ以上大きい規模のイベントをやるのが難しくなると考えておりまして、大きいところを今、探しているところです。ただ、まだ見つかっていません。

あと、資金については、クラウドファンディングや飲食店さんなどが共催したいと言ってくれるところもありますので、そういうところから資金を集めたり、あとはもうちょっと大きい会社さんなどにも声をかけさせていただけたらと思っております。

出店者も出たいという方がどんどん増えてきておりますので、その辺は開催頻度を上げて、順番に出てもらおうなど、平等に皆さんが楽しめるようなイベントになるように考えております。

○鈴木委員

農家さんとの繋がりもどんどん増えているということでしょうか。

○さいたま有機都市計画 内藤

実際のところかなり増えました。それは有機農業限らず、もともとの農家さんとの繋がりも、このイベントを通して広がっていくことができたので、それはすごく良かったと思っております。

○鈴木委員

出店される農家さんは、市内の方だけですか。それとももっと広いのですか。

○さいたま有機都市計画 内藤

さいたま市近郊の農家さんに声をかけるという形にしております。ただやっぱりさいたま市のイベントなので、8割以上はさいたま市の有機農家になっております。

○山形委員

私も有機農業を応援する市民の1人です。いろいろな支援が行われていると思うのですが、この有機というところを後押ししているところで、どんなところで差別化を図っているのかを伺えればと思います。どういった形で他とは違うというところをお伝えしているのか教えてください。

○さいたま有機都市計画 内藤

まず、参加団体が有機農業をやっている方しか出店していません。飲食店に関しても、有機農産物を日頃から使っているところのみに今回、声をかけさせていただきました。他の農産物マルシェだと、有機農家もいるというマルシェなのですが、今回は全員が有機農家だというのが一つポイントになっている点だと思っています。

○山形委員

そこをかなり宣伝されたような感じですか。

○さいたま有機都市計画 内藤

有機農家同士の繋がりが、もともと緩くあったというのがあって、その繋がりで誘っていったという形で、伝えたいメッセージも有機農業を広めていこうよというメッセージだったので、今回はそういう差別化を図りたいなと思って、有機農業に限定したやり方で人を誘いました。

○事務局

以上で4番目の団体の報告を終了いたします。

## ○Smile Daisy 神谷

Smile Daisyの神谷と申します。私たちは、保護者向けSNSの使い方講座～我が子を被害者にしない！加害者にしない！ために～という表題で、児童の保護者を対象に、SNSを利用する際に注意すべき点などがわかりやすく視聴できるように、講師が質問に答える形の動画を作成いたしました。

インターネット上での誹謗中傷などの問題点について、保護者や子供の認識を深められるように、それぞれの年齢で問題点が理解できるように動画を4本に分け、視聴しやすい15分程度のものを最低でも2週間視聴できるようにしました。質問はサークル活動の中で、保護者からの相談や雑談の中で出てきたことなどをいくつか挙げて講師に検討いただきました。

一番の課題は年齢を絞っていたので、そのターゲットにどうしたら動画が配信されることをお知らせできるかということで、チラシ作成が一番良いと考えました。ただ、予算を立てるときに、小学校への配布を考えていなかったために、小学校への配布ができませんでした。

その他の方法を市役所の方にいろいろと考えていただき、市報、市のホームページ、SNS、教育研究所からの周知ができました。サークルとしては、サークルのホームページでお知らせしました。

動画配信が始まり、翌日より有料オンライン相談を設けました。4本の動画配信後には、相談日を増やしたりもしましたが、どちらも申し込みがありませんでした。ただ、動画配信の際に、公の相談場所を毎回掲載し、相談場所を提供できたことは良かったと思います。

動画配信のため、質問形式は難しかったですが、質問と答えの内容がより鮮明に視聴者の方に残る形で出来たのは良かったと思いました。

参加者の声ですが、「対話を大切に、大人も真剣に向き合う姿勢と親子双方が納得するということが大切だと思っていて、社会に出ても他者との調和を図れるような人間形成をしていけたら良いと思います」というありがたい感想をいただきました。この協働事業でこの企画をやらせていただいて本当に良かったと思います。

今後ですが、今まで以上に動画配信だけでなく、対面で開催することも含めて、人権について考える機会を継続的に提供していきたいと思います。

## ○事務局

報告について質問のある方はいらっしゃいますか。

○篠崎委員長

小学生向けということですが、なかなか難しいと思う部分もあり、具体的に各小学校との連携みたいなことも意識されている活動なのでしょうか。

○Smile Daisy 神谷

私どもの活動が異文化交流なので、海外の方とか小学生や低学年の方と交流を持つということで、様々な人種があつたりとかがあるので、SNSで誹謗中傷したりとかコロナの時期でちょうどそういうことも親御さんから相談を受けたので、これは良いなと思って参加させていただいた次第です。

○鈴木委員

とても大事なことだと思うのですが、コンテンツの内容は、専門家の方にお任せされたのでしょうか。先ほど保護者の方の質問も踏まえてということで、内容が結構大事なのかなと思いました。内容をどう評価するか客観的な評価みたいのはあったのかお聞きしたいです。

○Smile Daisy 神谷

市のホームページに声を寄せていただいた方の中に、中学年か高学年かのお子さんがいらっしゃって、どういうことに気をつけなくてはいけないかがよくわかったということを書いていただいたので、私たちが講師と相談して話したことがちゃんと届いていたのだなという実感がありました。

○鈴木委員

今後の発展的な計画というのはいかがでしょうか。

○Smile Daisy 神谷

私ども、そもそもSNSだけではなくて、人と人との関わりを大事にしているところもあるので、コロナ禍でどうしてもそれを必要とするということで、この事業に参加させていただいたのですが、コロナがおさまらつつあり、今後は、対面での開催も考えてやっていきたいなと思っています。

○事務局

以上で5番目の団体の報告を終了いたします。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

一般社団法人Happy-Casket代表の保科と申します。私どもがお世話になるのは、2回目です。初年度は絵本遊びだったのですが、2年目は感覚遊びを楽しもうということで実施しました。

昨年の事業が終わった時に、引き続き参加したいというお問い合わせも多かったので、チラシの作成も昨年のもとのベースを同じにしつつ、少し見やすい形で作成いたしました。

事業の目的、目標等はお手持ちの資料に書いてありますので、御覧いただければと思います。

各回の開催報告を説明させていただきます。チラシ、プログラム作成に関わる打ち合わせなどを6月に開催いたしました。この時に、先ほど申し上げたチラシは、同じような形式でいこうということで、配布先も公民館さんをメインにしております。

8月から開催予定だったのですが、8月はコロナ感染症拡大のため、最後の煽りを食らいまして、1回キャンセルになっています。その代わりに、9月にやらせていただきました。9月15日はセンサリーボトル、10月はセンサリーバックづくりです。

採択時に予算をもっと下げろというお話だったので、当初計画していた開催内容とは、随分と変わった形での開催内容になっています。当初は、身のまわりにあるものを使ってと思っていたのですが、そうするとどうしても経費がかさんでいくので、100円均一のものに限るような形で、皆さんが入手しやすいようにしました。

続いて、色水サンキャッチャー作り、それから風船スクイーズ作り、センサリーマットを3ヶ月連続で作りました。そのほかに、皆さんに他の感覚遊びのグッズも紹介しています。会話を多くする、皆さんのお話を多くするというのをメインに据えて今回は実施しました。

参加者皆さんの声としては、「今まで外に出る機会があまり無かったので良いきっかけになった」、「市の方が親身になって話を聞いてくれた」、「コロナ禍で友人もできにくかったが、同じ年頃の子供を持つ友人ができた」などいただきました。

昨年から引き続き協働で実施させていただきましたけれども、今回はもっと浦和区支援課さんと協働という形が取れたと思っております。

○事務局

報告について質問のある方はいらっしゃいますか。

○篠崎委員長

同じ内容でも回によって随分と参加者の変動があるのですが、何か思い当たる理由はございますか。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

参加者に関しては、特に思い当たる理由はなく、皆さん来たいときに来るような形でいらっしゃっています。あとは、小さい子の病気が蔓延している時はやっぱり少ないですね。

○鈴木委員

継続して毎月1～2回やっていることは、大変素晴らしいと思いました。参加者は、リピーターが多いのか、毎回違う人が多いのかというのはどうでしょうか。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

今までは、一生に1回しか参加できないというイベント企画でした。だけれども、お子さんの体調とか気候とかで、皆さん来れたり来れなかったりとかもあるし、人数ももう少し多くても良いんじゃないかなという話も出たので、冬ぐらいから何回出ても良いよという話になってきました。

ただそれがすごく良かったと私は思っています。何回も出ることで、お友達も出来るんですよ。皆さんすごく楽しそうで、どんどん生き生きとしていらっしゃったので、功を奏したかなと思っております。

○久間委員

今回、印刷費で5,000枚チラシを作ってもらったのですが、どういったところに配布されて、それからそれを全部配布し終わったのかというところを教えてください。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

昨年度、コロナの関係もあって、募集が出来なかったというのがあって余りました。チラシが無くても、何とかかなりそうな気がするということで、今回は大幅にチラシの枚数を減らしています。

配布先は先ほど申し上げましたが、公民館さんがメインです。公民館はお母さんがよくいらっしゃるのので、私がよく講師とかでお邪魔している公民館さんだと、毎月持っていかなきゃいけないぐらい実は捌けるんですね。今回は、人数が揃いそうだと配らないという形でやっていたので、今回は少し余っているくらいだと思います。

○山形委員

今後1コイン講座ということで展開されるということですが、その中でも自分たちですべて賄っていけるような、採算が取れるイメージがあるのかをお伺いしたいです。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

大丈夫です。

○山形委員

独立じゃないけども、ずっと継続していけるということでしょうか。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

はい。

○山形委員

素晴らしいです。応援したいなと思っています。

○平井委員

浦和区は子育てサロンがあるのですが、参加できない方が参加できるのですごく良いと思いました。チラシ以外でSNSを見てきたよという方などはどのぐらいいらっしゃるのでしょうか。何の媒体で知って来たかということを知りたいです。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

それに関しては統計をとっていないのですが、ほとんどは私の口コミです。

○平井委員



子育てサロンのボランティアを以前、依頼を受けてしたことがあって、当時私も子育てをしてやっていました。今の若い人はアプリとかSNSで情報をキャッチするので、その辺りのハードルもきっと低かったから、参加者が継続してあったのかなと思いました。

○一般社団法人Happy-Casket 保科

基本は電話です。電話という指定があったので。

○平井委員

今は往復はがきが無くなったのですが、以前は往復はがきで募集していたと思います。協働されていること自体が素晴らしい刺激になっているかなと思います。応援しています。

○事務局

以上で6番目の団体の報告を終了いたします。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

特定非営利活動法人たねの会代表の佐藤と申します。お手元に報告書を配布させていただきましたので、そちらを使って報告したいと思います。

私たちの団体は、さいたま市のあいぱれっとにおいて、子供たちが自由に遊べる場、プレイパークを運営しております。今回、さいたま市内に子供たちの遊べる場をもう少し広げたいということで、プレイパークの活用が無い地域に、遊び道具を積んでプレイワーカーという専門職が行って、地域の方と一緒に遊び場を作るという活動をさせていただきました。

今回は市内3ヶ所の公園に行かせていただきました。具体的には報告書7ページ、北区の番場公園は、乳幼児親子さんを対象にした時間帯に行いました。最初は人数が少なかったのですが、だんだんと口コミで人数が増えて、最後の回はとてもたくさんの参加があり、よく来ているお母さんが、新しく来てくれたお母さんに声をかけて、一緒に遊びに誘ってくださったり、そういった繋がりも生まれてきております。

来年度の開催も望む声が多く聞かれておりまして、今年度も継続して採択していただきました。番場公園は支援センターさんと連携して開催していけないかということで今、御相談させていただいております。

続いて8ページになりますが、西区のプラザ中央公園は、放課後の時間帯に小学生を主な対

象に実施しました。こちらは自治会さんの御協力がすごく大きくて、自治会長さんとか民生委員さんも出てきてくださって、一緒に子供たちと関わってくださったり、準備をしてくださいました。今年度も自治会さんと協働でやらせていただきたいと思います。と思っています。

最後11ページ、岩槻城址公園は、お父さんの参加がとても多くて、ただ、ちょっと小学生への周知が足りなかったということもあって、今年は児童センターさんと連携してやらせていただけないかということで、お声掛けさせていただいているところです。

今後ですけれども、私たちが行かなくなっても地域の方で継続していけるような方法を、地域の方と一緒に模索していく年になるかなと思っています。

#### ○事務局

報告について質問のある方はいらっしゃいますか。

#### ○阿部委員

この事業をどんどん広げていくには、自主的な開催ができるプレイワーカーが必要で、それについて何か具体的な検討はされていますか。事業を理解して、自分でもやろうという人を広げるのが本来の目的だと思います。

#### ○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

例えば他の市で見ると、児童センターと共催で児童センターの敷地内でやっているところがあったり、大宮プレイパークではプレイワーカー無しで、地域のお母さんたちだけでスタッフがそろったら開催しますという形でやっていたり、様々な形で開催されています。

プレイワーカーにきちんと来て欲しいということであれば、各団体が助成金を申請したり、そういったアドバイスも私たちはできるかなと思っています。

地域の方と相談しながら、継続の方法を一緒にお伝えしていくとか模索していくことなど、これまでの経験の中で私たちがいろんな方法を持っているので、それをお伝えしていきながら、継続できるようにサポートできればと思っています。

#### ○阿部委員

人づくりは大変だと思うけれども、広がるように頑張ってください。

○久間委員

プレイワーカーの仕事は大変素晴らしいお仕事ということで、ただ心配なのは、やはり皆さんがちゃんと生活していけるような、この金額で大丈夫なのかと心配な気持ちになります。そのあたり、助成金でも十分成り立っているものなののでしょうか。それともほかにも何か財源をお持ちなののでしょうか。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

おかげさまでプレイワーカーに関しては、謝金の方で十分なものを確保させていただいております。事務局に関しては、助成金対象外ということで、たねの会で頑張っています。

○久間委員

そういうことも、今後支援していけると良いですね。

○山形委員

資金の流れを見ていると、人件費が結構かかっていると思うのですが、これは最終的に自分たちで独立するような方向で何かしら考えていらっしゃるのか、こういった助成金なり、そういったものに頼り続けるという形で事業を考えていらっしゃるのかお伺いしたいです。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

今回、遊び場を開いてノウハウをお伝えするというところでプレイワーカーの人件費がかかっているのですが、それぞれの地域で独立してやっていくとなったら、プレイワーカー無しでやっていくという選択肢もあります。

例えば私たちが移動型プレイパークを今後いろんな場所に続けていくとなると、やっぱり財源の確保が必要になってくるので、ぜひ市で事業化していただきたいということは、お伝えしているところです。

そのあたりも検討会という中で様々な市の事例、プレイパーク事業が事業化されている他市の事例なども御紹介させていただいたので、その辺りもさいたま市の方と一緒に考えて、事業化していけるような方法を一緒に考えていただければなというところではあります。

○篠崎委員長

以上で質疑を終わります。ここまでは一般助成事業の報告でございました。

続いて団体希望助成事業の報告を事務局からお願いします。

#### ○事務局

団体希望助成事業の実績報告として、都市づくりエヌピーオーさいたまさんの事業報告を事務局からさせていただきます。都市づくりエヌピーオーさいたまさん、略称つくたまさんとお読みするのですが、大きく2つの内容を実施していただきました。

まず1つ目は、20周年記念誌の作成です。委員の皆様のお手元に配布しておりますので、御覧いただければと思います。この記念誌は、つくたまさんのこれまで活動されてきた20年間の歩みとこれからのつくたまの目指す方向性を発信するために作成されました。この記念誌は1,000部作成されまして、つくたま関係者のほか、まちづくりに取り組む市民団体や個人の方、さいたま市役所、埼玉県庁、その他大学などにも配布されたということです。

2つ目は、20周年記念ワークショップとエクスカージョンです。午前の部では、つくたまさんが関わる市内3ヶ所について、希望のコースに分かれまして、現地の見学及びその地区の現状説明などを行いました。午後の部では、会場に集まり全体意見交換会を行いました。参加者がそれぞれ活動している中での体験や意見など、全体の場で意見交換がされました。

参加者からは、「さいたま市民でも全然知らなかった取り組みを知る機会となり、とても良かったです」との声や「知っている場所でも知識と経験のある方のお話とセットになると、全く違った景色に見えてきました」というような感想がありました。

#### ○久間委員

20年間の活動は大変素晴らしく、この冊子も素晴らしいと思っているのですが、もうちょっと参加者があっても良いのかなと思いました。これだけの活動をされていて、これは会場の制限とか理由があるのでしょうか。

#### ○事務局

詳しく聞いていないのでわからないのですが、会場は44人ぐらいが頃合いだったのかなと思っていて、全体協議があったので、余りにも多すぎても協議しにくいところもあったのかなと思っています。つくたまさんが呼びかけた結果、この人数になったのかなということで把握しております。

○久間委員

会員がもうちょっと増える活動になると良いなとすごく思いました。

○鈴木委員

質問ということではないのですが、私このイベントに参加してまして、つくたまはまちづくりとか建築とかそういう専門家の人が結構多くて、あとここにいらっしゃる方の関係のところも多くて、専門家も入りながらいろんな地域活動をしている団体です。

午前中はもっと人数がいたのですが、帰った方も結構いて、このぐらいの人数になったということですが、補足説明でした。

○久間委員

どちらかというと、専門家の方が中心の活動ですか。

○鈴木委員

運営はそうですね。あと、まちづくりの専門的な講演会をやったりとかリサーチをやったりとか、さいたまのまちづくり専門家でこれだけやっているのは、多分唯一だと思います。

○篠崎委員長

以上で報告は終了といたします。

この後、各事業に対する本委員会の講評をまとめます。最終的にまとめられた講評は、後日、団体及び所管課に通知するとともに、ホームページで公表されることを御承知おきください。

講評をまとめるのですが、いきなりは大変なので、まず委員の皆さんのお手元にある資料4-4に、報告会を受けて感じた御意見を御記入いただければと思います。

いったんみなさんの御意見をまとめて、そのあとで全体議論をしながら委員会としての講評をまとめたいと思います。本当はたっぷり時間をかけたいと思うのですが、なかなか時間も厳しいので、資料4-4を記入する時間を5分ぐらいでまとめた後、委員会としてのまとめをいたしますけれども、まず講評記入をお願いします。

○事務局

こちらで5分測ります。

《各委員講評記入》

○篠崎委員長

なかなか書き切れなかったとは思いますが、記憶の部分も含めて、御意見をいただきながら議論をしたいと思っています。委員会の講評をまとめますが、まとめ方について御相談しておきたいと考えております。

この委員会では、今回の講評と同じように意見を集約して文章化するということが、今まで何度もあったということです。昨年度までの委員会において、皆さんの間での合議の意見を文章化するにあたっては、まず協議で出た発言や皆さんが記載した講評等、事務局が一旦、要旨としてまとめて起こして、それを委員長が改めて取りまとめるという方法をとっていたと聞いております。今回の委員会でも同じような形式で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○各委員

承認。

○篠崎委員長

ありがとうございます。

今日の段階では資料の4-4に書いていただいたこととこの後皆さんからも各事業について、あるいは全体を通した御意見をいただいて、まとめの資料の基にしたいと思っています。

では皆様の方から御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。それぞれの事業については、それぞれの質疑応答の中でということで、大体よろしいでしょうか。いろいろな事業があった中で、共通する御意見を伺えたらと思うのですがいかがでしょうか。

個人的には、繰り返すというか継続するということが効果があったのは、いくつかの事業で共通して出てきた点かなと思っていて、なかなかこの事業自体、ずっと続くわけにはいかないのですが、回数を繰り返していくことが、開催する方にとっても、参加する方にとってもお互いにとってメリットがあるのかなという印象を受けました。

御意見がある方がいらっしゃればお願いします。

#### ○平井委員

継続する活動はすごく大変だと思います。私の勉強不足で知らないのかもしれないのですが、県は企業と市民活動団体やNPOとマッチングする部門がありまして、協賛したり協働したり、企業とNPOや市民活動団体を結ぶということにとっても力を注いでいます。

今日発表があった皆さんの活動は素晴らしくて、例えば御一緒したりだとか、そういった企業だったり或いは商店会として一緒にやりたいとか、いろんな方向性があると思います。その活動を維持して継続していくのに、助成金頼みではなく、企業も参加して、もっと横の繋がりをという考え方を市として取り入れていっても良いのではないかなと思います。

そうでないとやっぱり手弁当では大変だと思います。私もいろいろやってきたのでわかるのですが、市民活動はやるだけで大変です。どこかそういったところを行政が助けてあげたら良いのではないかなという全体の感想を持ちました。

#### ○篠崎委員長

個別の事業でも、あるいは共通でも良いのですが、もう少しこうすれば良いのというような視点も、ぜひ教えていただければと思います。

#### ○山形委員

回数を重ねると、成功していくことが多いと委員長も先ほどおっしゃったのですが、それと宣伝が大きく関わっているような気がしています。今回の事業に関しても、宣伝がうまくいったところは、それなりにお客さんというか参加者がいらっしゃるような形で事業展開されていて、そこをちょっとつまずいたら、それなりの反応が返ってくると全体通して感じました。

#### ○篠崎委員長

個別事業についての評価で、皆さんが質疑応答とか今おっしゃっていることも含めて、感想をまとめさせていただきます。

1番目、まず大人が知ろう！自分らしく生きていくための性の知識ですが、非常に好評だったようで、つながるBOOKの配布も完了したと報告がありました。こういうのは、バージョンアップしていくのがすごく大変だけれども必要なものなので、今回の実施によるアンケートの結果を踏まえて、新しいバージョンを作っていただけると継続的になるのかなと思っております。

2番目はShining Hearts' Party 20。これだけのイベントをやるというのはなかなか大変でありますし、コロナのこともあったのですが、YouTubeで配信という対面とオンラインの併用ということで、これから一般的になってくるところかなと思います。

一方でどの手法にしても、専門的な結構な経費が発生してくるので、それを業者の力としてやるのかなど、市民活動の中では生じてくるところだと思います。

配信については、アーカイブ化されて、ずっと積み重なっていくと思うので、それを見ていくとすごく面白いアーカイブができるのではないかなという気がしました。

3つ目、手をつなごう！さいたま市民活動夢マルシェは、かなり人気のあるマルシェで参加希望者も多く、入れ替えていかななくてはいけないぐらいということでした。開催するたびに新しい関係もできて、やる意義があるなと思っています。

一方で御質問のあった、個人レベルではどうかみたいなどは、やはり難しいんだろうなと思います。いろんな活動があるというのはわかって、親しみは持てるのですが、それが直接市民活動に参加するかと言うのは、また別の話だろうというところがあります。

ただ、やっていること自体は素晴らしい。また、個人個人が何か活動に参加するきっかけみたいなことをマッチングするというのは、もっと進めていただけるといいかなと思いました。

4番目、さいたまOrganic City Fes. です。これも非常に好評だったということで、新しい関係もできた一方、出店が多くなったらなつたで、物事の規模というのもあるので、イベントを大きくするのも良いんだけど、今回の事業であれば、このくらいの大きさのものを複数やられても良いのかなと思います。

大きなイベントは、人も集まるし、時間もかかるし、今回くらいの大きさのイベントを複数やるというのもあり得るのかなと思います。

5番目、保護者向けSNSの使い方講座～我が子を被害者にしない！加害者にしない！ために～は、これもコロナの中でどう子供と向き合うか、非常に有益な事業だと思いましたが、なかなか難しいと感じました。

方法の話もあると思うのですが、対象者の親御さんもそうですけども、あとその子供さんにどう届かせるかというところは、結構難しい部分があるかなと思いますし、単独ではなくて、何か他の団体とか学校とか連携していく必要もあるのかなと思います。これから対面もということなので、期待をしたいと思います。

6番目、子育て応援サロン 感覚遊びを楽しもう～Sensory Play with your kids!は、非常に面白い活動だと思います。ただ、手弁当みたいなどもやっぱり残っているとすごく感じ



て、規模もそんなに大きくなくて、この団体の場所で慣れている、やりやすいところだというところは、いろんな市民活動団体の一つの見本みたいになり得るのかなと思います。

7番目、移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろうは、期待をするんだけど、実際やるのはとても大変で、そこは本当にNPOなり市民活動団体で、事業的にやっていけるところなのかというのは正直思いました。

もしかしたら行政から委託されるというのものもあるかなとは思ったのですが、成立するかというのは、プレイヤーが報酬で生活できるかが大事かなと思いました。この事業は移動型でいろんな場所づくりという感じで、いろんな場所で開催しようという意気込みを感じました。

8番目の都市づくりNPOさいたま 創立20年プロジェクトは、ワークショップがあったり、会議があって、なかなか20年間まちづくりをするのは大変なので、こういう事業をきちんとやるというのはとても大事で、記録に残っていくというのは、やっぱり大事だなと思います。

あと、まとめるのは、私に御一任していただければと思いますが、よろしいですか。

○各委員

承認。

■議題6 今後のスケジュールについて

○篠崎委員長

議題6、今後のスケジュールについて、事務局から御説明をお願いします。

○事務局

《資料5に沿って説明》

○篠崎委員長

日程や進め方については、今までの活動を参考した目安でございますので、審議の進捗に合わせて随時、見直しを行いたいと思っています。ぜひ皆様からも積極的な進め方、御提案、御意見があれば頂戴したいと思っています。

それでは本日の議案はすべて終了ということになりますが、委員の皆様から何か御意見があれば伺いますが、いかがでしょうか。事務局から何かございますか。

## 6 その他

○事務局

《事務連絡》

## 7 閉会

○篠崎委員長

予定時間を超えましたが、本日の会議を終わります。お忙しい中、長時間にわたり御審議ありがとうございました。